

平成 23 年 度

第3回名寄市総合計画策定審議会専門部会
(都市基盤整備部会)

日 時 平成 23 年 4 月 6 日 (水) 18 時 30 分～
場 所 名寄庁舎 4階 第2委員会室

- 1, 開 会
- 2, 挨 拶
 - ・建設水道部長挨拶
 - ・都市基盤整備部会長挨拶
- 3, 自己紹介
《事務局》
建設水道部担当職員
- 4, 議 事
 - (1) 前期基本計画及び実施計画の点検及び情勢等の変化に伴う課題について
(総合計画前期計画点検シート)
 - 《主要施策》
 1. 上水場・簡易水道の整備
 2. 下水道・個別排水の整備
 3. 都市環境の整備 (市街地再開発事業)
- 5, その他
- 6, 閉 会

■別添 第3回都市基盤整備部会 顛末及び発言内容

(司会)齊藤管理課長

(挨拶)野間井建設水道部長

(進行)菅井部会長

議事 (1)前期基本計画及び実施計画の点検及び情勢等の変化に伴う課題について

1. 上水場・簡易水道の整備 安藤上水道係主査説明

(質疑応答)

(委員) 簡易水道はどこか？

(安藤主査) 風連日進地区、智恵文八幡地区、中央地区が簡易水道です。

平成28年度に上水と統合予定で、後期事業に入ってくる予定です。古い施設なので後期に改修していく。

(委員) サンプルダムがもしダメならどうなるのか？

(安藤主査) 方向性が検討されているが、ダメなら異なる方法で再度検討するが、現在は未定である。

(委員) 風連地区、中名寄地区、自衛隊へ上水道を延ばすとなれば、水源はサンプルダムが頼りになるのか？

(安藤主査) 必要水量が増えるので、水源をサンプルダムと考え、1510トンを頂いて賄う予定です。

(委員) なぜ、風連地区も上水にするのか？中名寄地区の簡易水道はどんなものですか？

(安藤主査) 水質が地下水でありあまり良くないので整備を行う。現在、中名寄地区は独自で管理する上水施設で、地下水くみ上げて対応していて、市としてはノータッチである。そのため、水道料金は頂いていない。

(委員) 自衛隊も同様ですか？

(安藤主査) 現在はそうである。天塩川から水を取り、独自の施設で水をきれいにしていく。しかし、水質があまり良くないのが現状である。

(委員) 水質に問題があって飲めないのか？

(岩端課長) 水はどんなに汚れていても、きれいにすることは可能である。しかし、原水が汚れていると、それだけ費用がかかる。また、上水施設が多くあると維持管理費用がかかるので、一つにして配水した方が節約になるので、現在の計画を進行している。

2. 下水場・個別排水の整備 岩端工務課長説明

(質疑応答) 特になし。

3. 都市環境の整備(市街地再開発事業) 土田市街地再開発担当主幹説明

(質疑応答)

(委員) 少子高齢化、市街地の空洞化が問題点である。コンパクトなまちづくり、まちなか居住を名寄市内で実施していかなければ意味がない。風連地区は終了したが、名寄地区で何をしていくか現在見えてこない。複合交通センターや3・6問題、文化ホールあるが、街中で何をやるのか見えてこない。具体的にある程度たたき台を作ってもらわないと、前に進まない。まちづくりについて、図面等におとして示していただきたい。

(土田主幹) ピンポイントでの計画、整備は始まった。商店街・市街地の事業展開について、H22. 10に議論が始まった。今年度、議論をして、残っている3年間(H26まで)で事業化できればと思っている。市でたたき台を出すのではなく、一緒に考え、議論していければと思っている。

(委員) 3・6の問題は、地権の問題等で難しいものである。簡単な場所が他にないか？いつまでたっても解決が困難な場所で、計画自体できなくなるのではないか。商店街と膝を交えて話をする必要があるのでないか。

(土田主幹) 3・6 再開発は、多数の事業が絡み合っている。中心市街地活性化基本計画では、3つの事業があるわけだが、見直しや変更が必要になるかもしれない。民間主導の事業であり、行政でできるものではない。商工会議所や地権者等と時間をかけた協議が必要になる。しかし、時間的に厳しいものになる。

(委員) 3・6の難しい問題とは？

(土田主幹) 3・6の土地を一体的に開発整備することによって、イメージを大幅にリニューアルすることができる。しかし、地権者の動きがないとできないことである。民間の負担もあるが、動きがないと市で補助することもできず、市が主導で行えるものではない。

(委員) 3・6 空き地は元市営アパートであった。今の飲食店街も市の土地である。しかし、店主との絡みもあり簡単な問題ではない。

(委員) 難しい問題が山積していて、一つ一つ解決していくことは困難で無理ではないか。3・6は予備的なものとして、他の場所で検討した方がよいのではないか。

(野間井部長) 基本的に中心市街地活性化基本法の関係で計画作ったが、補助が付かず進んでいなかった。しかし、国土交通省のまちづくり交付金を頂き、駅横から文化センターまでの間でコンパクトなまちづくり、賑わいの創出を考えている。駅横と文化ホールについては目途だったが、間の商店街についてなんとか民間サイドで開発ができないか。

商工会議所とも検討をしているが、うまくいかなければコンパクトなまちづくり、持続可能なまちづくりを含めて、この専門部会でも話し合いをいただき方向性をみいだしていきたい。

(委員) 3・6 メインにこだわると先に進まないと思う。他を探した方が早いのではないか。

(野間井部長) なかなか進まないかもしれない。しかし、中心市街地の事業もソフト事業含めて 28 事業残っていて、手が付いていない。何かきっかけがないと進んでいかないようにも感じている。

(委員) コストがかかりすぎるので、3・6は手を付けてはいけないのではないか。

(野間井部長) お金がかかりすぎるので、色々論議してほしい。地権者も大変な負担であるが、より現実的に 28 事業を一つ一つ始めてもよいと思う。

(土田主幹) 事業がたくさんあるが、金銭的に考えて、ソフト事業を組み合わせると何かを行うことも可能であるので検討・議論したいと思います。

(菅井部会長) 第2回第3回専門部会で議論したが、総括的に意見を求めます。

(委員) 緑丘にある市営団地(東光団地)の結露がひどく、カビがすごい。南団地は新しく快適だそうで、差がありすぎると感じる。何とかならないのか？

(野間井部長) 現代の住宅は気密性がよく、換気をしっかりとしないと結露の解決は難しい。住み方の問題もある。一度見てみたい。

(委員) 結露はどこの住宅でも発生する可能性がある。公営住宅に限らず加湿器と除湿器の両方を使用して対応している方はたくさんいる。

- (明石課長) 住宅担当に連絡をいただければ、現場を確認しに行きたい。洗濯物の干し方等、換気を含めて生活実態により異なると思う。南団地と東光団地では換気システムが異なるのは現実である。
- (委員) 換気システムはメーカーも模索している。ようやく、確立されてきている。技術の向上が図られてきている。
- (委員) 道路、排水、除雪の関係ですが、雪が解けてきて除雪で排水溝が壊れている所などがある。
- (斉藤課長) もちろん対応します。しかし、簡易舗装ではよくあることで、すべての道路をチェックできるわけではないのが現状です。話、情報をいただければ対応をしたい。
- (委員) 市道、道道、国道などがあるが、どこが所管の道路なのか、どこに話をすればよいか迷ってしまう。
- (斉藤課長) 市に話を頂ければ、担当に連絡をして対応していきたい。
- (委員) 新学期が始まり気にしている保護者が多くいるので、対応をお願いしたい。
- (委員) 前期計画につて、説明もらったが、概ね計画通りと伺って安心した。前期計画作成時、市民と協働ということで作成したと思われるが、市民との協働をどのような形で5年間進めてきたのか？
- (斉藤課長) 維持管理業務については、行政区ごとに組織を作ってやってきている。町内会と一緒に進めてきている。また、整備等は地元説明会を行い、意見要望を反映してやってきている。市民ができることは、それぞれお願いしてきている。
- (委員) 財政が厳しい状況である中、限りある予算で事業を行うわけですから、市民にも理解してもらい、一緒にまちづくりをしてほしいと思う。市民も理解したうえでまちづくりをしていかなければならないと思う。
- (斉藤課長) 高齢化、後継者不足で町内会も困っているのが現状である。以前と異なり人的支援をお願いするが、難しくなっている。しかし、人的支援や応分の負担含めて市民をお願いしていかなければならないことがある。
- (野間井部長) 4月から自治基本条例が施行されたが、協働のまちづくりをしていかなければならない基本理念がある。高齢化で地域がのれない部分もある。協力頂けるものはお願いしていきたいが、市の負担方法、負担割合なども今後検討していく必要がある。どの町内会も高齢化により、市への要望・依頼が多くなることは課題となる。
- (委員) 風連地区では、公園等が自主管理されている。人も金も市に依頼・依存するのではなく、元気な高齢者もたくさんいるので、そのような方々には協力を依頼していくべきである。市民と行政とが一体となってやっていくのが、まちづくりであり、後期もお願いされたい。
- (菅井部会長) 発言のなかった方は一言ずつ頂きたい。
- (委員) 概ね計画通り進んでいると感じたのが素直な感想です。
- (委員) 総合計画、まちづくり考えると、3・6問題もあるが、たくさんあるが、一番の問題は高齢化、人口減の問題がネックになる。この度の大震災で自衛隊派遣により名寄市からも約1,000人が派遣されているが、名寄市の経済活動が低迷している。人口が2万人台になることも、シュミレーションして計画を作成していく必要がある。
- (委員) 前期をベースに後期計画を検討していくわけだが、加藤市長は更に何かを入れていくべきだと思う。人口減は現実問題で、人口2万人でのシュミレーションも必要である。
- (委員) 名寄地区の3・6問題の難しさを初めて知った。
- (委員) 今回の大震災で上下水道のインフラ整備の重要さを感じた。各事業とも、概ね100%、それ以上の進捗状況で良かったと思う。

(齊藤課長) 次回は後期計画の課題と見直しのポイント、施策の体制等について議論、検討していただく。
進め方は企画課で整理して、4月末ないしは5月連休後に行いたいと思う。次回専門部会については、事務局より案内させていただきますのでよろしくお願いします。